

大谷大学・大谷大学短期大学部 博物館学課程

2006年度の活動計画

2006年度の文学部・短期大学部の博物館学課程は、前年度の反省を踏まえて立案され、資格取得課程委員会博物館学課程部会で承認された授業計画に基づき、博物館実習Ⅰ担当教員を中心に実施した。

博物館実習Ⅰ(学内実習)

本年度の博物館実習Ⅰ(「2006年度博物館実習Ⅰ(学内実習)授業テーマと内容」参照)は、文学部第3学年を中心に、大学院生・第4学年を含む計23名を対象にし、まずはじめに「仏教資料取扱法」(序説)と題して、「総論」から入り、本課程の歴史やねらい、展望などにふれて、受講生に目的意識の明確化を促した。また本課程の特色である「仏教文化財」の内容を概説した。そして、受講生には「仏教資料取扱法」(序説)の内容をふまえて、「仏教文化財について」「受講生にとって博物館とは」などと題するレポートの提出を求めた。このレポート作成は、これまで観覧者の立場にあった受講生を、学芸員を目指す者として動機付けすることを目的にしたものである。また本課程の特色となる古文書読解力の養成強化の観点から、前年度の「古文書読解法」の復習の時間を2コマ設けた。

次いで、前期には、①「仏教遺物資料Ⅰ・Ⅱ」(仏教考古・仏教民俗)、②「古文書」(近世・近代史料)、③「写真撮影実習」等の講義・実習をそれぞれの担当者がおこなった。講義では知識の習得をめざす一方、実習では、実務として拓本、掛け軸、古文書などの取り扱いなどを習得させた。実習に際しては、受講生23名を4班に分けておこなった。

各授業ごとに、作成した調査カードやレポートを必要に応じて提出させた。

夏期休暇中、夏期フィールドを7月31日(月)、8月1日(火)・2日(水)の3日間で企画し、初日に「古文書調査実習」、2日目に「博物館資料撮影実習」、3日目に「博物館等施設見学」という計画を立て、実施した(詳細は「博物館実習Ⅰ(学内実習)夏期フィールド」参照)。終了後、受講生は夏期フィールド参加レポートを提出した。

後期④「真宗史料」、⑤「仏教文献資料Ⅰ～Ⅲ」では、真宗史料と東洋・日本の仏教を中心とした文献資料の講義と実習をおこなった。いずれも専門的知識の習得と取り扱い技術の習得に注意した。このほか、近年、博物館でその利用が注目されている情報処理技術と博物館の関係を認知させるために「博物館とマルチメディア」では、スタジオを使用して、講義と実習を実施した。また来年度受講予定の博物館実習Ⅱ(学外実習)での実習生展に向けて事前調査のコマを設けた。

最終授業時には、一年間の授業の総括と、次年度の博物館実習Ⅱ(学外実習)にのぞむ心構えや、博物館実習Ⅰの復習など事前学習の必要性を説明した。

また本年も受講生が主体的にテーマをもって3館以上の博物館・資料館・美術館などを見学してレポートする課題を設けた。これは受講生各自の自覚を促すとともに、学芸員の「現場」での様子を認識させる意図を持ったものである。

博物館実習Ⅰ・Ⅱ合同見学会

例年、博物館実習Ⅰ・Ⅱの受講生を対象と

して、春秋二季の博物館合同見学会を実施しているが、本年度は次のとおりである。

春季合同見学会は5月21日(日)午後1時30分より奈良国立博物館の特別展「大勧進 重源 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出」を見学した。また秋季合同見学会は、11月19日(日)午後1時より大津市歴史博物館の企画展「天台を護る神々 山王曼荼羅の諸相」を見学した。それぞれ受講生は見学あるいは聴講した内容をレポートにまとめて引率教員に提出した。こうした見学会の機会は、上記の夏期フィールドでの施設見学と各自でおこなう年間3館以上の見学、そして春秋二季の博物館合同見学会と、少なくとも4回設けている。

博物館実習Ⅱ事前ガイダンス

本年度の博物館実習Ⅱ(学外実習)の参加に先立ち、6月28日(水)午後4時10分より1号館1111教室で「博物館実習Ⅱ」受講生を対象とした「事前ガイダンス」をおこなった。概要は次のとおりである。

基調講演「博物館をとりまく状況」

京都国立博物館学芸課

企画室長

赤尾 栄慶 氏

ガイダンス「大阪府立狭山池博物館」

大阪府立狭山池博物館

学芸員

吉川 邦子 氏

最初に本課程の「博物館概論」を担当していただいている赤尾先生から、表題のテーマについて、具体的な事例をふまえてさまざまな問題を指摘された。また学外実習参加を目前にした受講生にとって重要な心構えを具体的にご教示いただいた。

吉川先生からは、勤務館の概要を述べられ、学芸員として具体的な仕事内容を述べられた。

講演後、両先生から質疑応答の時間を頂戴し、講演内容のほか、学外実習の細かな点にまで丁寧なお答えをいただき、有意義な事前ガイダンスであった。

終了後、受講生には学外実習のための事務説明をおこない終了した。

博物館実習Ⅱ(学外実習)

本年度の館務実習は、7月・8月を中心にしておこなわれた。受講生は文学部・科目等履修生を含めた12名(内訳は、文学部・大学院11名、科目等履修生1名)であった。実習館と実習生数は次のとおりである(「博物館学課程 2006年度」参照)。

実習終了後、受講生は各館で実習した内容と反省点をレポートにまとめて提出した。この内容は、次年度の「博物館実習Ⅰ」(学内実習)・「博物館実習Ⅱ」(学外実習)を含む本課程の検討にとって大切な資料となる。また受講生は別に「博物館実習Ⅱで学んだこと」というテーマの要旨も執筆後、提出して本年報(「博物館実習Ⅱ(2006年度)レポートから」)に掲載しているので、参照されたい。

最後に、本年もご多忙にもかかわらず、本学の実習生を受け入れいただき、ご指導を賜った各館の館長および学芸員、関係職員の皆様に厚くお礼を申し上げる。

博物館実習Ⅰ(学内実習)夏期フィールド

本年の博物館実習Ⅰの夏期フィールドは、例年通り①「古文書調査実習」、②「写真撮影実習」、③「博物館等施設見学」の各1日の3日間として実施した。その後、受講生は、夏期フィールド参加レポートを提出した。

〔夏期フィールド〕

○7月31日(月)午前10時～午後4時

「古文書調査整理実習」

場所：本学響流館博物館準備室兼実習室

指導：木場明志教授・草野顕之教授

○8月1日(火)午前10時～午後4時

「写真撮影実習」

場所：本学響流館博物館準備室兼実習室

指導：稲城正己臨時講師・宮崎健司助教授・平野寿則専任講師

○8月2日(水)午前8時30分～午後6時30分

「博物館等施設見学」

引率：宮崎健司助教授・平野寿則専任講師

- ①安土城考古博物館
- ②かわらミュージアム
- ③近江八幡市立資料館

本年度は初日に「古文書調査整理実習」、2日目に「写真撮影実習」、3日目に「博物館等施設見学」という日程となった。

1日目「古文書調査実習」では、昨年度に引き続き「山城国笠置村万屋家文書」の調書作成と、目録作成のためのデータベース制作実習をおこなった。2日目の「写真撮影実習」では、前期授業での基礎知識の復習から、写真撮影の技術の初歩を講義したのち、一人ひとりが、その都度、カメラ・照明などのセッティングして、仏像などのレプリカの写真撮影実習をおこなった。最終日3日目の「博物館等施設見学」では滋賀県下の3館を訪問し、それぞれの概要等を懇切に説明いただき、施設や展観を見学した。通常では立ち入ることができない、バックヤードの見学は受講生にとって新鮮であったようである。

例年同様、本年の夏期フィールドも、多くの関係者の方々のご指導とご配慮をいただき、無事に3日間の実習を終了することができた。

博物館実習Ⅱ 受講生の展示実習

本年度も、昨年度に引き続き、博物館実習Ⅱ受講生による実習生展を、大谷大学博物館の秋季企画展「仏教の歴史とアジアの文化VI」にあわせて開催した。

受講生を2班にわけ、各班で企画から展示、監視などもおこなった。本年度はさらに各班で展示解説も実施した。詳細は以下の通りである。

〔実習生展〕

会期：9月12日(火)～30日(土)

会場：大谷大学博物館

内容：A班(片山 清澤 澁谷 高橋 田澤 吉田)

「物語の世界」

- I 語り物一軍記物語を中心に一
 - II 語り継いだ者たち
 - III 語り物から読み物へ
- 『平家物語』巻11
『曾我物語』
『太平記』
『百人一首一夕話』
『無名抄』
『直幹申文絵巻』(複製)
『和訓栞』
『和漢三才図会』
『よしつねあづまくだり物語』
『謡曲拾葉抄』
『こあつもり』(複製)
『一谷嫩軍記』

B班(澤村 多田 中村 濱野 松岡 星津)

「和歌の系譜」

はじめに

- I 中国文化への憧憬～漢詩～
 - II 「国風」の自覚と隆盛～和歌～
 - III 自由な歌風へ～狂歌～
- 『文選』
『白氏文集』
『唐詩選 国字解』
『万葉集』
『和漢朗詠集』
『古今和歌集』
『千載和歌集』
『新古今和歌集』
『新続古今和歌集』
『万葉體狂歌集』
『卜養狂歌集』
『狂歌年中行事』

(宮崎健司)

■2006年度 博物館実習Ⅰ(学内実習) 授業テーマと内容

日程	授 業 テ ー マ	担当者	授 業 内 容
4/10	仏教資料取扱法 (序説)	宮崎健司	博物館実習Ⅰのねらいと展望(総論) 仏教文化財について
4/17 4/24	復習古文書	平野寿則	古文書読解実習
5/15 5/22	仏教遺物資料Ⅰ (仏教考古)	宮崎健司	仏教遺物資料(講義) 仏教遺物資料の取り扱い実習
5/29 6/5 12	仏教遺物資料Ⅱ (仏教民俗)	豊島修	仏教民俗・民俗資料(講義) 仏教民俗・民俗資料の取り扱い実習 仏教民俗・民俗資料の取り扱い実習
6/19 26 7/3	古文書 (近世・近代史料)	木場明志 草野顕之	近世・近代史料の種類(講義) 近世・近代史料の取り扱い実習 史料調査法
7/10	写真撮影実習	宮崎健司 平野寿則 稲城正己	フィルムの種類・機能及び撮影上の注意事項 撮影実習
7/17	夏期フィールド事前学習	宮崎健司	夏期フィールドの事前学習
7/31 8/1 8/2	夏期フィールド	木場明志 草野顕之 宮崎健司 平野寿則 稲城正己	古文書調査実習見学 博物館資料写真撮影実習 博物館・美術館などの施設
9/25 10/2	真宗史料	一楽真	真宗史料(講義) 真宗史料(聖典・絵画)の取り扱い実習
10/9 16	仏教文献資料Ⅰ (東洋仏典)	采翠晃	大蔵経の種類(講義) 漢訳大蔵経の取り扱い実習
10/23 30	仏教文献資料Ⅱ (漢籍中心)	浅見直一郎	漢籍・中国資料の概要 漢籍取り扱い実習
11/6 20	仏教文献資料Ⅲ (日本仏典)	沙加戸弘	日本書誌学の基本(講義) 仏教文献資料の取り扱い実習
11/27	博物館実習Ⅱ事前準備	宮崎健司 平野寿則	来年度博物館Ⅱ(実習生展)事前調査
12/4 11	博物館とマルチメディア	松川節	博物館における情報処理技術(講義)
12/18 1/15	博物館実習Ⅱ事前準備	宮崎健司 平野寿則	来年度博物館Ⅱ(実習生展)事前調査
1/22	総括	宮崎健司	本年度の反省と博物館実習Ⅱにむけて

■2006年度 博物館実習Ⅱ(学外実習)

実習館名(館長名)	実習期間	実習生名
滋賀県立琵琶湖文化館(宮本忠雄 館長)	7/4~7/8	多田あゆ美 松岡智美
大阪城天守閣(中村 眞 館長)	7/24~7/27	澁谷真理子
日本民家集落博物館(井藤 徹 館長)	7/27~7/30	高橋 寿子
池田市立歴史民俗資料館(田中晋作 館長)	8/9~8/13	片山佳奈恵 田澤涼子
栗東歴史民俗博物館(佐々木進 館長)	8/15~8/18	澤村 真実
大阪歴史博物館(脇田 修 館長)	8/21. 8/23~8/25	中村 裕美
京都市歴史資料館(井上満郎 館長)	8/22~8/25	吉田仁美
霊山歴史館(谷井昭雄 館長)	8/22~8/25	濱野亮介
大津市歴史博物館(松浦俊和 館長)	8/22~8/26	清澤和音 星津和香

■学芸員資格取得者(2007年3月16日付・第18期生)

〔大学院〕 清澤 和音

〔文学部〕 高橋 寿子・澤村 真実・片山佳奈恵・澁谷真理子・多田あゆ美

中村 裕美・濱野 亮介・松岡 智美・吉田 仁美・星津 和香

〔科目等履修生〕 田澤 涼子

(12名)

2006年度博物館実習Ⅱ レポートから

8月23日から26日までの5日間、私は大津市歴史博物館で博物館実習をする機会を頂いた。実習は講義を中心に実践も交えて行われ、掛軸・屏風・卷子・拓本の取扱方法や簡単な展示作業を行った。また、甲賀市油日神社に伝来する鎌倉時代の経典を調査団の方々と一緒に調査をした。約八百年もの時を経てきた経典に実際に触れることで、歴史の重みを肌で感じる事ができた。文化財はモノではなく、人間と同じように生きているのだと実感した。講義では博物館が今置かれている現状と課題について学び、これからは地域に根ざした博物館が求められていることがわかった。今回の実習で何よりも現場で働く方の生の声を聴けたことが非常に有意義であった。学芸員は、過去・現在・未来を繋ぐ大切な役割を担っていると感じた。現場実習であるからこそわかることがたくさん見えて本当に貴重な体験であった。そして実習で培った知識を今後活かしていきたいと思う。

大学院修士第2学年(仏教文化専攻) 清澤和音

* * *

7月27日から30日までの4日間、日本民家集落博物館で実習をさせて頂いた。日本民家集落博物館は、日本各地の代表的な民家を移築復元し、民家そのものを展示している野外博物館である。実習内容は主に民家の掃除と民具の手入れである。民家は一日中雨戸が開けっ放しなので、すぐに砂埃が積もる。そのため掃除が欠かせない。絵画、彫刻、工芸品、書跡、古文書等の有形文化財とは違い、民家のように野外に設置されている文化財は常に風雨にさらされているため、そのままの

形を保存することが難しいということを学んだ。民家をただ見せるだけでなく、民家を活用した養蚕体験や民家の模型作り、囲炉裏の火入れ体験等を行って、民家に少しでも親しんでもらおうと様々な努力をされていた。しかし、入館者数は右下がりという実態を知り、厳しい現状を実感した。4日間という短い間ではあったが、学芸員の仕事に携わることができ、実に有意義な実習であった。

文学部第4学年(仏教学分野) 高橋寿子

* * *

8月15日から18日までの4日間、栗東歴史民俗博物館で実習をさせて頂いた。実習では主に展示替え作業を行った。現展示品の撤収作業、次の展示品の調書取り、資料の展示、キャプション作り、貼りパネ作業等、一連の作業に関わらせて頂いた。民俗博物館ということもあり、資料は大きくて重いものが多く、資料を収蔵庫から出し入れする作業では、学芸員には体力も求められるということを感じた。実習3日目には、小学校教員の、博物館での研修の様子も見学した。そこで博物館の教育普及の様子を目にすることができた。そして博物館が独立して存在しているのではなく、学校と協力しながら教育普及活動を行っているということを改めて感じることができた。短い期間ではあったが、実際に博物館側に立って博物館について考えることができ、この機会をあたえて下さったことにとても感謝している。

文学部第4学年(臨床心理学分野) 澤村真実

* * *

私は8月9日から13日までの5日間、池田市立歴史民俗資料館で実習をさせていただいた。実習内容はパソコンを使って外国切手の目録を作成する作業を中心とし、2日目と5日目最終日の午前中には同じ池田市にあるラーメン記念館と逸翁美術館を見学して、各館の目的や違いについて実習館の館長からお話を伺った。目録の作成は地道な作業で、他館の見学がない日には1日中作業を進める事もあった。ずっと切手と向き合っていなければならないため根気がなければ続けることは難しい作業だと感じた。しかしこの作業を経験する事で、身をもって学芸員という仕事の大変さを実感できた。楽しさ・面白さだけでなく大変な一面を知ることができたのは、自分にとって大きくプラスになったと思う。他館の見学や館長からお聞きした貴重なお話を含め、実習を通してもう一度博物館というものを考える機会を与えてくださったことを、館の人々に深く感謝したい。

文学部第4学年(東洋史学分野) 片山佳奈恵

* * *

7月24日から27日までの4日間、大阪城天守閣で博物館実習をさせて頂いた。大阪城天守閣は博物館というだけではなく、大阪の著名な観光地である。そのため学芸員の方々は、来館する人々に見やすく分かりやすい展示をするということにとっても心掛けておられた。また、大阪城天守閣の展示は、分かりやすいだけではなく、子供から大人まで様々な年齢層が楽しめるように映像や模型を駆使するなど工夫も凝らされていた。展示だけではなく、天守閣内の温度や湿度、照明にも気を配り文化財にとってよりよい環境づくりも完璧になされていた。大阪城天守閣の学芸員の方はとても気さくで来館者の方や天守閣に寄せられた質問にも丁寧に答えておられた。学芸員というと近寄り難いイメージがあるが大阪城天守閣の学芸員の方々と来館者の距離は

とても近かった。来館者に楽しんでもらおう、という気持ちを持って展示企画し来館者と触れ合うことの大切さを改めて感じる事ができた。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 澁谷真理子

* * *

7月4日から8日までの5日間、滋賀県立琵琶湖文化館で「学芸員とは」「博物館とは」を学ぶ機会を与えて頂いた。当館では琵琶湖の歴史と文化に関する展示が中心となっており、「地域に近い」博物館という印象を受けた。また園城寺の聖教調査では、様々な古文書を取り扱うだけでなく、金堂の屋根の修理を間近で見学する事ができた。特に実習で博物館機能を構成する根本が博物館及び学芸員が築き上げてきた「信頼」だと気付いた。それは園城寺の調査や博物館の委託資料等によって、博物館・学芸員と所蔵者・来館者の関係があつてこそ「博物館」として成り立つことが可能であるとわかった。実習を終えて学芸員とは、後世に貴重な文化財を伝えるための「蔵番」であり、「研究」だけでなく「展示」という本来の働きとは矛盾しているが、文化財の大切さを伝える存在であると思った。この貴重な経験を今後の自分に生かして学び続けたい。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 多田あゆ美

* * *

8月21日、23日から25日の4日間、大阪歴史博物館での実習を通して博物館の普及事業、企画・広報の役割、展示などについて学ぶことができた。講義中心であったが、他館へ資料を貸出す際の検品の様子やX線透過撮影装置等の見学、実物資料を用いての実習も多く、充実した内容であった。大阪歴史博物館は「市民参加型」事業に力を入れており、普及事業として大学や生涯学習施設への講師派遣、講座や見学会の実施等を行なってい

る。その他には子どもを対象とした体験教室を実施し、休日の子どもの受入れ先になりつつある。また、難波宮遺跡探訪やスタンプラリー、体験学習等、ボランティア事業も多い。これは博物館側がボランティアを必要としているばかりでなく、そのような方々が定年後に自分のやりがいをどう見つけるかということにも大きく関わってくるそうだ。このような事業によって、市民は博物館をより身近に感じることができるのではないかと感じた。

文学部第4学年(国史学分野) 中村裕美

* * *

8月末、霊山歴史館において実施された、博物館学課程の館務実習に参加させていただいた。全4日という短い間であったが、現場で働く方々の実際の作業を交えてのお話の数々は、博物館に関するだけでなく、今後の人生においても非常に有意義であったと感じるところである。特に、著名な幕末の研究者である木村学芸課長の大河ドラマ『新撰組』にまつわる多種多様なエピソードは物事の裏側と常に先を見通す見識の深さを垣間見、とても興味深いものだった。また、学芸課長は「学芸員には『雪が解けたら何になる?』と問われれば『春になる』と答えるようなセンスが必要」と、おっしゃっていた。「水になる」という凡庸な答えしか思い浮かばなかった己の不明を恥じるのみである。このように、学芸員の方々には大変面白い方々も多い。これから実習に参加しようとする学生の皆さん方には、是非楽しみにしていただきたいと思う。

文学部第4学年(東洋史学分野) 濱野亮介

* * *

私は7月4日から8日までの5日間、滋賀県立琵琶湖文化館で実習をさせていただいた。実習では、重要文化財の仏教彫刻や工芸・絵画等、幅広い分野の文化財を調査し、

講義では博物館の管理運営等様々なことを教授していただいた。学芸員としての経験に基づいたお話をされ、マニュアル化された取り扱いではなく、文化財の特徴を知り、各々にあった取り扱いの重要性を学んだ。また、6・7両日と園城寺勸学院聖教調査を行った。典籍の中には虫食いなどがひどく開くのに躊躇するものもあったが、井上学芸員が素早く開くコツを親切に教えてくださり大変勉強になった。7日には園城寺のご好意で修復中の金堂の屋根に登らせていただいた。作業過程を見、実際に屋根の中に入れたことで、改めて文化財の持つ力を実感することができた。この実習では、学芸員の仕事や技術・調査方法、現場の生の声を聞くことができ大変貴重な体験ができた。ここで学んだことを今後に生かしていきたい。

文学部第4学年(東洋仏教史学分野) 松岡智美

* * *

大谷大学の博物館学課程実習生として、8月22日から25日の4日間、京都市歴史資料館において古文書及び美術・工芸品の取り扱いを行い、学芸員業務の一端を経験させて頂いた。実習内容としては、文書調査の基礎作業である古文書の分類・整理といった作業が中心であったが、取り扱った勝林院文書には、中世文書や近世の口宣案等が含まれており、貴重な資料に触れるという学芸員の醍醐味が実感でき、感慨深い経験が出来たと考える。また、実習館が市史編纂といった調査機関としての活動を主としているため、私自身、学芸員が研究員であると考えている契機となった。つまり、学芸員は調査・研究を基礎として活動するため、まず研究者たる技能の修得が不可欠なのである。よって、「課程としての知識の修得」から「職業上の技能の修得」へと問題意識を転換し、取り組みをしていくことが必要であると考えた。この点は今後の課題としたい。

文学部第4学年(国史学分野) 吉田仁美

* * *

大津市歴史博物館での実習は、初日に学芸員の方が言われた「役に立ちそうにない学芸員資格をなぜ取ろうとしているのか、との問い掛けから始まった。実習5日間は、講義・古經典の調査・園城寺の屋根の葺き替え工事の見学・美術工芸品の取り扱い・実習生による企画展等、緊張の連続であった。それは初日に言われた言葉を自分自身に問い続けた日々であったともいえよう。役に立たないと言われても今まだ学芸員資格を目指す者の一人、また地域に生きる者の一人として、博物館の抱える問題・人々から投げ掛けられる思い・今後の課題について考えていかなければならない。その中でこれからも答えを探し続けていきたい。この実習を通して自分を見つめ直し、ものを見る・思う・触れる・調べるといった貴重な体験をさせて頂いた。と同時に、同じ思いを持ち5日間を共有した他大学の仲間に出会わせて頂いたこともまた、貴重な時であったと思う。

文学部第4学年(国文学分野) 星津和香

* * *

私は池田市立歴史民俗資料館で、5日間実習をさせて頂いた。実習は外国切手の目録作成作業を主とし、他には同じ池田市にある2つの博物館を見学した。外国切手の目録作成は、ファイルごとに並べられた膨大な量の切手を、カタログで探しエクセルに打ち込んでいくものだった。とても地道な作業で忍耐を必要とするものだったが、その分じっくりと作業ができたと思う。博物館の見学は、逸翁美術館とインスタントラーメン発明記念館を見学した。この2つの博物館と池田市立歴史民俗資料館を含めた3館の違いや、目的の伝え方の違いなどに視点を置いての見学で、考える事の多いものだった。また館長か

らお聞きしたお話は多岐に渡り、学芸員としての技術だけではない人間的なものもお話していただけた事が心に残っている。最後になったが、池田市立歴史民俗資料館の皆様にはお忙しい中大変お世話になり、お礼を申し上げます。

科目等履修生 田澤涼子

* * *